

八重山諸島（石垣・竹富・西表島）

奮戦記

前平照雄

夢にまで見ていた八重山諸島での採集が、念願かなってやっと実現することになった。全ての面で初めてののため、段取りは谷角氏にお願いし、自分はただ後について行けばよいという、至って気楽な採集行である。日程は10月9～12日の3泊4日で、メンバーは谷角氏、足立氏、黒井氏と自分の4人である。前夜に谷角氏のアパートへ集合、谷角氏より蝶研出版へ与那国島より女性のお客さんがきていると聞き、八重山方面のニュースを仕入れる意味も含めて、一度お邪魔してみようということになる。

時すでに最高潮、室内から洩れるギター之音・手拍子・歌声、賑やかなものである。「今晚は」「お邪魔します」自分としては初対面の人達ばかりである。お互いに自己紹介をする。「ところで、このきれいな女性はどちらの方ですか？」「蝶研出版与那国支店の彼女です。いやこれは冗談や」与那国土産の泡盛でまずは一同乾杯。「ところで八重山どうですか？」「イマイチみたいやねえ」「あきまへんか？」「天気がねえ」「雨が降ってないからなあ」聞こえてくるのは暗いニュースばかりである。ヤエイチ・ツマベニ・リュウキュウムラサキなどを俵に一杯満足するほど採集できるよ、という返事を期待していたので、嫌な予感が頭の中を横切った。せっかく用意万端整えたのに。．．．何といっても谷角氏、足立氏の必殺コンビが同行するのであるから、そんなはずはないと何度も何度も打ち消した。23時に床につく。心は、はや石垣島へ。枕元で誰かの往復イビキが聞こえてきた。

明けて10月9日。天気としては申し分なし。黒井氏の車に全員乗り込み、大阪空港へ向けて出発。

日本航空 911便は9時定刻に那覇へ向けて飛びたった。機内で沖縄方面の天候がアナウンスされた。あまり良好とはいいがたい。ままよ、幕は切って落とされた。なるようにしかならないと心に決め、座席にもたれて無我の境地。所用時間2時間10分で那覇に到着。ここで南西航空へ乗り継いで、石垣島へ行くこととな

る。50分間の待ち時間を利用して、ラーメンと稲荷ずしで朝昼兼用の食事をする。12時55分、石垣へ到着。空港の前には、頼んでおいたレンタカー会社の人が迎えにきており、慌ただしく荷物を積み込む。レンタカーの会社で手続きをし、一時を惜しんでバナナ岳へ。．．バナナ岳の麓の道路沿いにはセンダングサの白い花が咲き乱れ、我々を気持ちよく迎えてくれた。

ネットを出すのももどかしく、目をせわしなく動かすが、蝶影を全然見かけない。何としたことか。昨夜の不吉な予感が現実となってしまったのか。風があるのはしかたがないが、何せ気温の方が低くて思わしくない。「今日は蝶の慰安会で、皆留守にしているのところがいますか、これやったらわざわざ石垣まで来たかいないというもんや」その時である、森の中から数頭のスジグロカバマダラが、道端のセンダングサの上へ降りてきた。この蝶が実際に飛んでいるところを見るのは初めてである。新鮮なものを1頭ネットイン、♂であった。その後、バナナ岳の第1鉄塔まで、各自思い思いに採集しながら歩いて上がる。道路ぞいの雑木林の中ではコウトウシロシタセセリがせわしなく飛び、地上1mぐらいの所ではルリウラナミシジミが卍巴で飛び交っていた。

今夜は石垣泊まりだ。17時30分、民宿なぎさ荘に着き、シャワーを浴び、オリオンビールを飲んで明日への英気を養う。23時30分、床につく。民宿の近くにあるスナックから、切なく物悲しい蛇皮線の音色が、いつまでも夜のしじまに鳴り響いていた。

10月10日、朝6時起床。他の3人はまだお休み。昨日とは打って変わって好天だ。南国の強い日差しが降りそそぐなか、バナナ岳で足立氏を下ろした3人は、車を飛ばして川平を目指す。湾内の素晴らしさを味わうのは後まわしにして、墓地の付近を探し回る。迷蝶はいないか、珍蝶はいないか。センダングサの花には、スジグロカバマダラやシロオビアゲハが多数吸蜜に訪れている。その時、雑木林の中から1頭の白いチョウがものすごい速さで滑降してきた。「ナミエシロチョウだ！」残念、取り逃がした。胸の動悸が高鳴っている。バカチョウと呼ばれているオオゴマダラも採集できた。こちらにきて2日目で、初めて満足のいく採集をすることができた。川平湾の近くの食堂で遅い昼食をとる。オリオンビールで喉の渇きをいやす。五臓六腑にしみわたるようだ。展望台で記念写真を1枚写す。残念ながら午後から天気は下り坂となり、雨足が強くなる。予定の時間が近づい

たため、川平湾を後にする。

バンナ岳でクワガタ掘りを楽しんだ足立氏を拾って、石垣港15時30分発のトロピカルクィーン号に乗船。目指すは西表島だ。所要時間45分で西表島の大原港へ到着。港では、今晚お世話になる民宿南風荘の主人が出迎えてくれた。ここでも風が強く、肌寒い感じをうけた。早速レンタカーを借り、仲間川林道へ一直線。時間的に、一部のものを除けば蝶は見られなくなるころだ。このように、各採集地で時間的余裕もないスケジュールで回っているのも、一重に谷角氏が初体験者のために、限られた時間内で、より多くの場所へ連れて行ってやろうという思いやりの表れで、感謝の念で一杯であった。「薄暗くなりかけているのに、これから行くんか」「せっかくきたのに行かにはやあ」「なんかおるやろ」嫌と言うものは誰一人としていない。仲間川林道へきてみれば、あたりはすでに薄暗く、日も暮れようとしていた。

これが噂の仲間川か。眼下にはマングローブの林が延々と続き、樹木はまるでアマゾンにでもきたような錯覚をさせるものが生い茂り、時々鳥の鳴き声やセミの音がするだけで静かなものである。この付近一带にはハブが多いとのことで、恐る恐る採集して回った。ここでの一番の収穫は、何ととってもイワカワシジミ1♂を手にしたことである。

今夜の泊まりは、民宿南風荘だ。こちらにきて蝶の採集もさることながら、この南風荘は珍しい郷土料理を食べさせてくれると谷角氏より前もって聞かされており、たいへん期待していた。参考までに夕食のメニューを紹介すると、イノシシと野菜のいためもの、陸クラゲ（ブタの皮）の酢の物、ハマチ・イカの刺身、ガザミ（ワタリガニ）のゆでたもの、極めつけはドンブリで出てきた真っ黒な汁。「これは何ですか？」「真っ黒げやんか、こんなん食べれるの」民宿の主人いわく「これは珍味ですよ」ちなみに、これはスミイカのスミで、中の具はスミイカの足とのこと。他のイカのスミは食べられず、このイカのスミのみ味わうことができるらしい。塩味の淡泊なものであった。とにかくお膳に出されたものを片っ端から平らげてしまったら、もう満腹。思わずバンドをゆるめ、「これ以上食べられまへん」これだけで元が取れた思いがした。

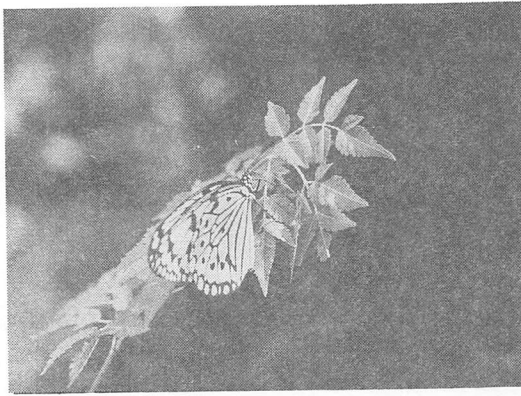
上原の新ロビンソン小屋に蝶研出版の高嶋明氏と林幸三郎氏がいるということなので、電話で連絡し、夜9時頃会って最新情報を聞かしてもらおう約束を取り付ける。「どないですか？」「昨日も白浜林道に行ったけどあきませんわ」「初め



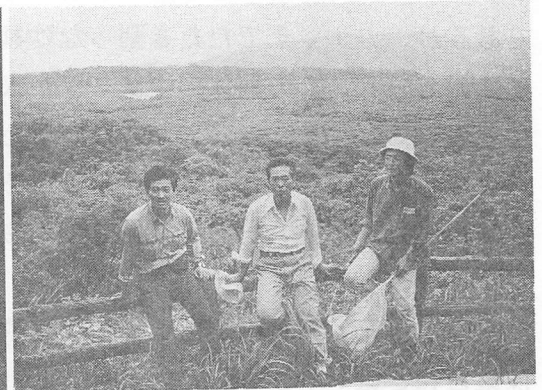
シロオビアゲハ(石垣島川平, 谷角撮影)



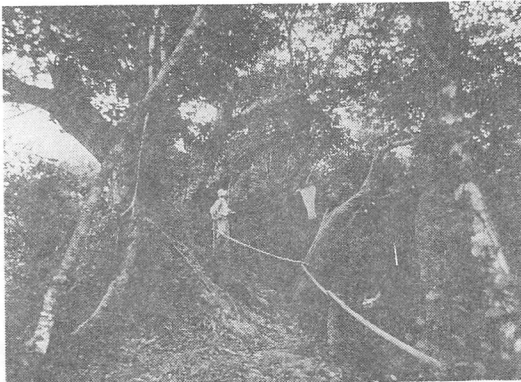
スジグロカバマダラ
(石垣島パンナ岳, 谷角撮影)



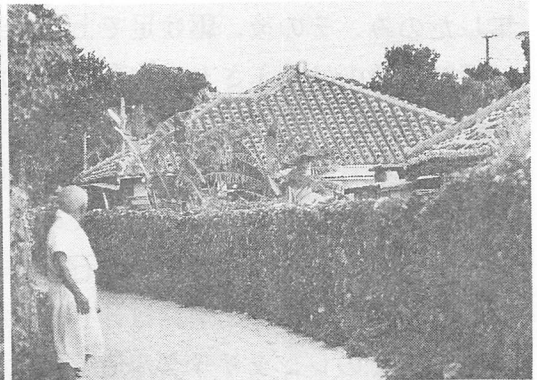
オオゴマダラ(石垣島川平, 谷角撮影)



仲間川林道の展望台にて
(左より谷角・前平・黒井, 足立撮影)



イワカワシジミを採集する前平氏
(仲間川林道, 足立撮影)



憧れの島, 竹富島の民家(足立撮影)

ての人もおるし、どんなものがおりまっか？」「まあ、リュウアサやスジグロカバはどこでもおるけど」「採れたら何でもよろしいわ」「今年は天気が良いすぎていいニュースは聞かれまへん。ツマベニの食草のギョボクは塩にやられて枯れてしもうとるし」「発生が4年周期みたいやし、今年も来年もあかんのちゃうか」「与那国の方も迷蝶はとんと不作やし、どこもあかんわ」ああ、お先真っ暗や！「ちょっと待ってや、いま珍しいもん食べさしたるさかい」「何でっか？」「ヤシガニや」「ヘー」見るのも初めて、まして食べたことなど一度もないヤシガニが、ゆがかれて真っ赤になって盆にのせられ出てきた。今日の昼間つかまえてきたとのこと。このヤシガニは片方のハサミが大人の手とほぼ同じくらい大きい。これが2本、前につき出ており、このハサミたるや相当の威力を持っているらしい。人間の指なども簡単に切ってしまう。そのハサミを人間様が食べるのであるが、カナヅチでたたき割らなければならないほど堅い。頭と胴体はイセエビに似ている。この胴体の中にミソが入っており、取り出した身にこのミソを付けて食べると、なかなかおつな味がした。

それから今夜は記念すべき一夜でもある。それは我らの同行者、足立氏の31回目の誕生日であり、一同乾杯をして誕生日を祝ったものである。

明けて11日、八重山諸島へきて、はや3日目である。今日も朝から風が強く、採集日和とはいいいがたい。

白浜ではテツイロビロードセセリはnull、ツマベニチョウを1頭目撃したのみ。浦内でタイワンキマダラを2頭採集。白浜林道でも迷蝶は1頭も見かけず、インガケチョウやリュウキュウアサギマダラ、スジグロカバマダラなどの普通種を採集したのみ。その後、駆け足で上原・美原と回り、西表島を後にしたのであった。14時20分発のはやぶさ丸で竹富島へ向かう。後は最後の採集地、竹富島への期待のみ。

15時すぎ竹富島へ到着。全体の感じは平坦な島で、すごく白っぽい。民家は本州では見かけない変わった造りである。屋根には魔除けとも思われる動物があしらってあり、家の周りに大小の石を積み重ねて防風壁をつくり、ハイビスカスで生け垣が造ってある。道路は砂（珊瑚礁）のむき出しである。

港の近くのレンタサイクル店で自転車を借り、各自思い思いの場所へ蝶を求めて散って行った。今まで回った採集地はイマイチという感じであったため、この

島も同じようなものであろうと思い、適当にポイントを定め、島の南方へ自転車をこぎ出していった。

ところが、ところがである。ある広場の端にセンダングサが咲きほこっており、それらへ真っ黒になるほどのシロオビアゲハが吸蜜に訪れているのが目に入った。白い花が黒くなるほどにである。ネットを一振りすれば10数頭も入るくらいの数だ。スジグロカバマダラもいる。リュウキュウアサギマダラもいる。これらの蝶はいわゆる駄蝶の部類に入るのであろうが、自分としては初めて見る光景にネットを振るのを忘れ、しばし見とれていたものである。「これが八重山諸島の真髄だ」「さすが竹富島だ」島全体が蝶の島という感じがした。3日目にして味わう感激の一瞬であった。

今晚の泊まりは石垣島の名蔵にある豊川荘である。これは大阪空港で出会った蛾屋グループの緒方正美先生達と約束をしたためであった。その夜は一杯酌み交わしながら自分の分野以外のことを聞き、夜の更けるまで話に花が咲いた。

12日は6時起床。こちらにきて、何故か毎朝早く目がさめる。ああ長いようで短い3泊4日の採集旅行も今日の午前中で終わりと思うと、何故かもう2、3日いたくなる。さあ最後の日だ、今日も竹富島で思う存分にネットを振ってこよう。後で分かったのであるが、この島では迷蝶のキタテハ2頭を採集したことが最大の収穫である。

石垣空港14時25分発、那覇で乗り換え、大阪空港へ17時55分定刻に到着する。

「ああよう遊んだなあ」「疲れたなあ」「あとの整理たいへんやなあ」「まあぼつぼつ展翅しまっさ」帰った端から「今度いつ行こうか」次回の採集行を考える。それほどまでに、八重山諸島は魅力のある島々である。

蝶の採集もさることながら、この3泊4日の採集旅行を通じていろいろなことを体験でき、有意義であったと思う。今回お世話になった谷角氏、足立氏、黒井氏には感謝の気持ちで一杯です。